

考動・躍動・感動

“決意”と“責任”のある言葉

先生自身、この記事を読んで『ハッ』とさせられた。若者同士の会話やメールの文末表現だけでなく、知らず知らずのうちに私たちは『自分の意志』をはっきりと伝えることを避けてしまっている風潮があるのではないだろうか。自分自身の言動を振り返ってみても、当たっている部分も大いにある。この文章にもあるように、表現を和らげて人と協調することも大切だが、自分の言葉に責任をもつことはもっと大切だと思う。 きっと自分自身に強い思いがあれば、自然と言葉にも変化が出てくると思う。 年度の最後、新しい年度を迎える今、“**決意があり、責任をもてる言葉**”を使える人になりたいと、改めて強く感じた。

決意

羽生選手の言葉に決意を感じた

ソチ五輪の閉会式後に、フィギュアスケート男子で金メダルに輝いた羽生結弦選手が「チャンピオンらしい人間になれるようにしっかりと頑張っていきたいと思います」と言った。自分を取り巻く環境の変化を覚悟し、静かに受け入れて自分を見失わず努力を続けようという決意を感じた。

この言葉が心に響いたのは、「頑張っていきたいと思います」という表現だからだ。多くの人はこういう時「頑張っていきたいと思いません」と言うと思う。人はいつから断定的な表現をしなくなったのだろう。「〜ではないかと思ったりする」と三重三重

にほかした言葉を使う。反論されるのが怖いからだろうか。自分の意見に自信が持てないからだろうか。若者同士のくだけた会話でも「うれしい」で済むところを「うれいしいかも」などと言い、「うかな」「うみたいな」「うって感じ」と、もはや口癖になっているように感じる。

表現を和らげて、人と協調することも大切だ。でも、「頑張りたいと思つ」という表現は、思つたけど頑張れないかもしれないという可能性を含む逃げ道にもとれる。決意がある時には羽生選手のようにきっぱりと、自分の言葉に責任をもちたいものだ。彼は有言実行のため、今後も自分を奮起させていくことだろう。

3月9日(朝日新聞)

【高遠林間学校に向けて】

月曜日の5時間目、体育館に全員が集まって『クラフトタイム』のプログラムを決めました。残念ながら第1希望が叶わなかった人もいましたが、第2希望まででおさまることができました。最後には『プレイタイムの有志発表募集』のお知らせもありました。また、授業後には実行委員会や火の舞が集まって練習したり、計画を立てたりしてくれています。

高遠林間学校まで、2ヶ月あまりです。『みんなで創り上げていく気持ち』を忘れずに、しっかり準備をして臨めるようにしましょう。



プログラム名	人数
もちつき	40
そばうち	40
五平もち	60
モザイクキャンドル	39
草木染め	7
土笛作り	28
藤細工	29
竹笛づくり	30